2　第６学年

(1) 国　　語

観点・小問ごとの分析	対　策　の　視　点
1 文字を読む 一、漢字を正しく読む 1.「難しい」（89%）、2.「背景」(75%)は読めるが、3.「誤り」（66%)、4.「拡張」（52%）は正答率が低く、4.については「こうちょう」「こうはい」などの誤答が目立つ。	◦ 慣用的に使われているものは読める。4のように道路を拡張するといった言い方も「ひろげる」と同じく使えるよう、文章表現の練習や日常の授業の中で指導する必要があろう。
二、漢字の音訓を読み分ける 1.の「疑」はよく読めている（76%）が、疑問を質問と読み間違えているものや「おぎなう」「うばう」などと読んでいるものがある。 2.の「興奮」はよく読めるが、「奮い立つ」が読めない。完全正答なので観点1の中では、49%と正答率がいちばん低くなった。	◦ 生活の中で、使用ひん度が少ない文字は、特に音訓を合わせた読みの、意図的な指導や練習が必要であろう。 ◦ 漢字そのものの読みはもちろん、言葉の意味を理解させ、文章の中で使用させながら、身につけさせることが大切である。
三、辞書の使い方がわかる 「郷」より「然」の部首の方がよくわかっている。「郷」は、「⺣」と「良」と「阝」の三つに分けられるが、誤答のほとんど「⺣」である。部首の意味がつかめないで、そのまま漢字を書いているものもみられる。 正答率は、1が64%、2が75%である。	◦ 漢和辞典を引くことは、国語辞典を引くことより機会が少ない。したがって、辞典の扱い方のところで丁寧に指導するとともに、引き方だけを理解させて終わってしまうのでなく、授業や日常生活において、大いに辞典を活用することを習慣化させたい。

観点1（文字を読む）について

観点正答率68%は、他の観点正答率にくらべていちばん高い。文字を読むという活動は、国語学習の最も基本的な活動である。漢字を読む学習では正しく読ませることを念頭におき、音・訓の読みをくりかえし理解させる。さらに、新しい漢字などは、自ら辞典で調べるという態度の育成が大切である。